

教 科	国 語	科 目	国語表現
履修条件 対象生徒	選択履修 デザイン科 3学年		
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと」「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」にバランスよく取り組むことで、総合的な表現力を身に付ける。</li> <li>・現代のさまざまな問題を正しく把握し、客観的に考察して自分なりの意見をまとめ発表する力を身に付ける。</li> </ul>		
学習方法	<p>[授業]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現の基礎の理解</li> <li>・文章の読解と要約</li> <li>・意見文・小論文の作成</li> <li>・実用的な文章の作成及び創作への挑戦</li> </ul> <p>[家庭学習]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の読解、意味調べ等</li> <li>・要約文・小論文・創作等、表現作品の完成</li> </ul> <p>[補習・その他]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代のさまざまな問題に関心を持ち、自分なりに考える訓練をすること。</li> <li>・読書は国語の力の基礎となる。図書館を利用するなどして多くの文章に触れること。</li> </ul>		
学習計画 と ねらい	<p>&lt;1学期末考査まで&gt;</p> <p>表現のイメージをつかむ</p> <p>(一) 話すということ</p> <p>(二) 書くということ</p> <p>表現のスタイルを知る</p> <p>(一) 的確に話す</p> <p>(二) 記録・説明の文章を書く</p> <p>(三) 意見文を書く</p> <p>&lt;2学期末考査まで&gt;</p> <p>表現のテクニックを磨く</p> <p>(四) 小論文を書く</p> <p>表現のスタイルを知る</p> <p>(四) 通信文を書く</p> <p>&lt;学年末考査まで&gt;</p> <p>表現のスタイルを知る</p> <p>(四) 通信文を書く</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○原稿用紙の使い方、表現記号の使い方、文字の使い分け等、表現の基礎を学ぶ。</li> <li>○さまざまな問題に対して、自分なりに考えようとする態度を養う。</li> <li>○内容を整理して分かりやすく話す方法を学ぶ。</li> <li>○文章を正しく理解し、的確に要約する方法を学ぶ。</li> <li>○意見文とはどういうものを理解する。</li> <li>○短い意見文を書く。</li> <li>○さまざまな問題に対して、何をもとに、どう判断するかを学ぶ。</li> <li>○例文を読解して目的に応じた構成の方法を学ぶ。</li> <li>○短い意見文から始めて小論文の作成をする。</li> <li>○意見や主張を明確にした小論文を書く。</li> <li>○手紙文・スピーチ・創作等、目的や相手に応じたさまざまな表現を学ぶ。</li> </ul>	
評価方法	<p>○評価の観点「関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「知識・理解」の4つの観点から総合的な評価を行う。</p> <p>○小論文・レポート・発表など生徒の主体的な活動を重視する。またそれらの表現活動においては、テーマの設定から表現にいたる学習過程の全体を評価の対象とする。</p> <p>○定期考査は、4つの観点が評価できるよう作問を工夫し、特に話す・聞く能力、書く能力を評価できる問題を重視する。</p> <p>○表現活動については、教員の評価だけでなく、生徒の自己評価や相互評価を取り込むように工夫する。</p> <p>以上を総合的に判断して評価する。_</p>		
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語表現の授業では国語辞典を活用し、語彙を豊かにするよう心がける。</li> <li>・新聞やインターネット等を活用し、現代のさまざまな問題に関心を持つよう心がける。</li> </ul>		